

# ヤングケアラー支援に向けたアンケート調査報告書

---

子どもの居場所運営者

〔 児童館  
子ども食堂 〕

令和4年7月

愛媛県保健福祉部

## 目 次

1. 子どもの居場所運営者におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査概要	
（1）調査目的	1
（2）調査概要	1
2. 子どもの居場所運営者におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査結果	
（1）ヤングケアラーの認識について	1
（2）ヤングケアラーと思われる子どもの状況	2
（3）ヤングケアラーと感じる子どもの情報提供について	6
（4）ヤングケアラーである対象者に求められるサポート	7
（5）ヤングケアラー支援で注意すべき点	8
（6）ヤングケアラー支援のための民間の連携先で考えられるところ	8
（7）ヤングケアラー支援について取り組んでいること、今後取り組めそうなこと	9
（8）ヤングケアラー支援についての課題や困りごと（その他、自由意見）	9

## 1. 子どもの居場所運営者におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査概要

### (1) 調査項目

ヤングケアラーについての認識やヤングケアラーと思われる子どもの有無、ヤングケアラーと思われる子どもの状況、支援の方法・つなぎ先など、子どもの居場所運営者におけるヤングケアラーとの関わりの現状を把握するとともに、今後の支援策の検討につなげるための質問を行った。

### (2) 調査方法

県内全ての児童館とえひめ地域子どもネットワークに参画する子ども食堂運営者に対し、Web アンケート方式により回答を依頼した。

◆調査期間：令和3年12月10日～12月28日

◆回収状況：有効回答数34（対象者数115 回収率30.0%）

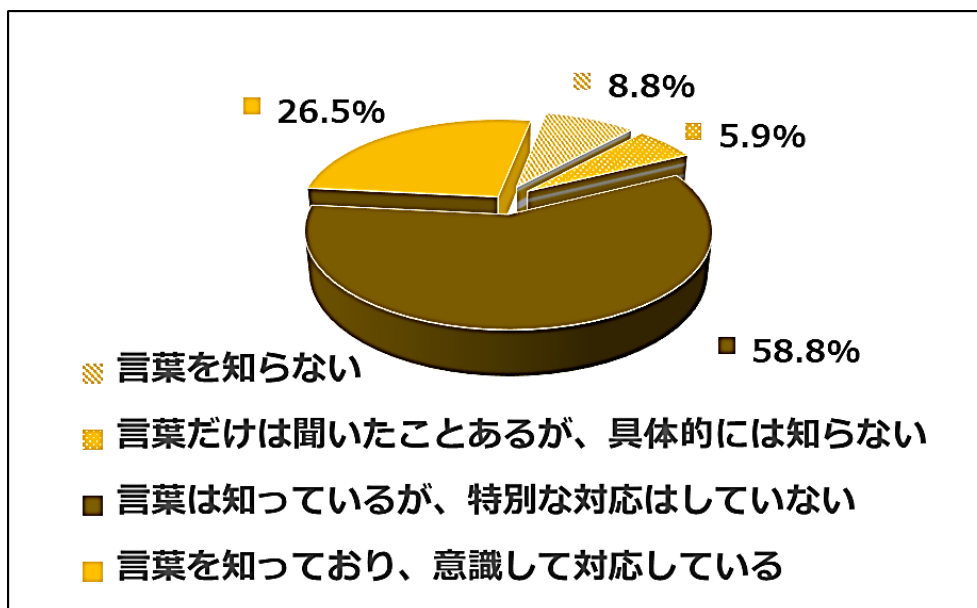
## 2. 子どもの居場所運営者におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査結果

### (1) ヤングケアラーの認識について

ヤングケアラーについての認識の程度

「ヤングケアラー」についてどの程度承知しているか聞いたところ、「言葉は知っているが、特別な対応はしていない」が最も多い58.8%、次いで「言葉を知っており、意識して対応している」が26.5%となっており、言葉やその内容を知っていると答えた運営者は8割以上となっている。

図表1 ヤングケアラーという概念の認識の有無

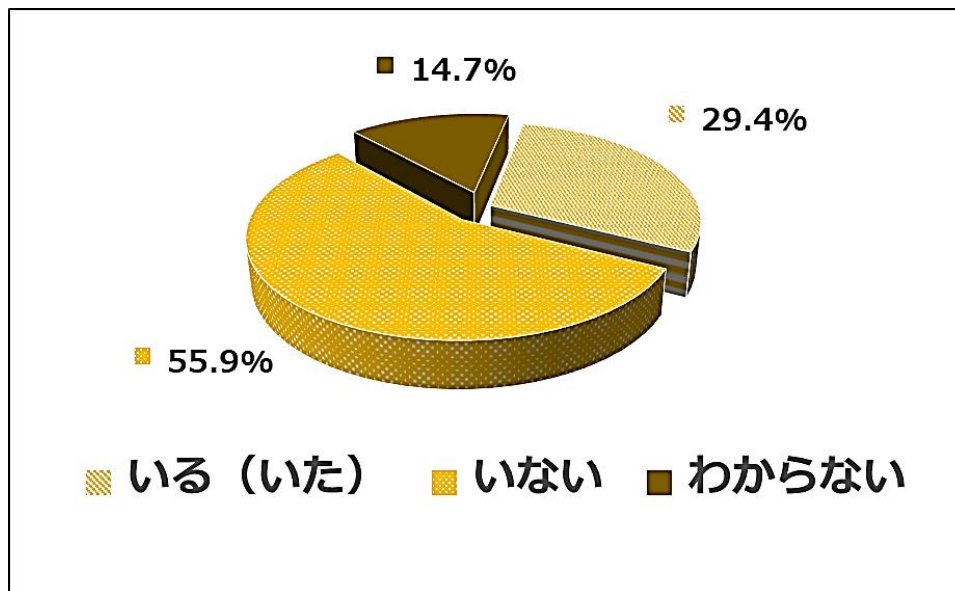


## (2) ヤングケアラーと思われる子どもの状況

### ① ヤングケアラーと思われる子どもの有無

関わった家庭の中で、ヤングケアラーと思われる子どもはいるか（過去にいたか）を聞いたところ、「いる（いた）」が29.4%（10名）、「いない」が55.9%、「わからない」が14.7%となっている。

図表2 ヤングケアラーと思われる子どもの有無

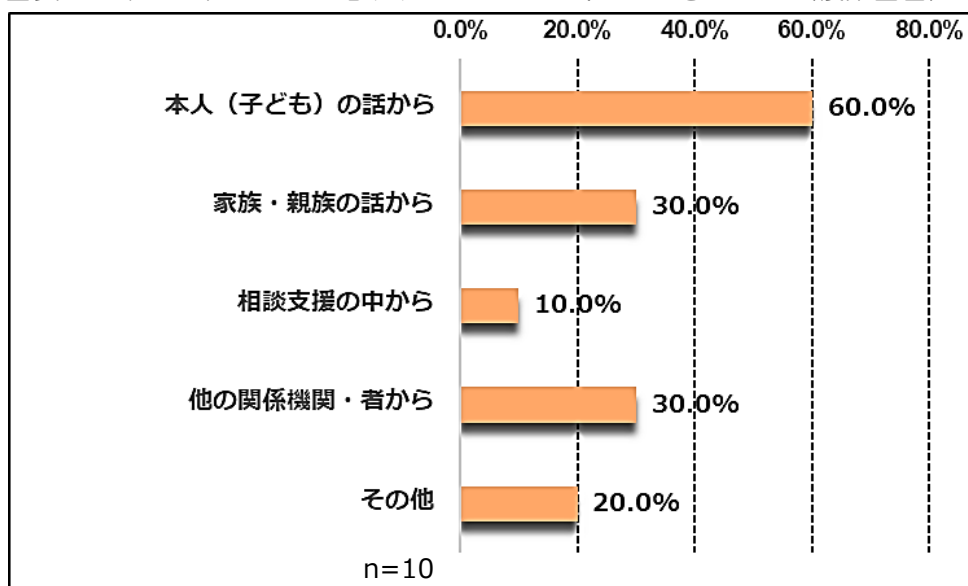


### ①-1 「ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたきっかけ

（①で「いる（いた）」を選択した場合に回答）

気づいたきっかけを聞いたところ、「本人（子ども）の話から」が60.0%と最も多く、次いで「家族・親族の話から」と「他の関係機関・者から」がそれぞれ30.0%となっている。

図表3 ヤングケアラーと思われる子どもに気づいたきっかけ（複数回答）



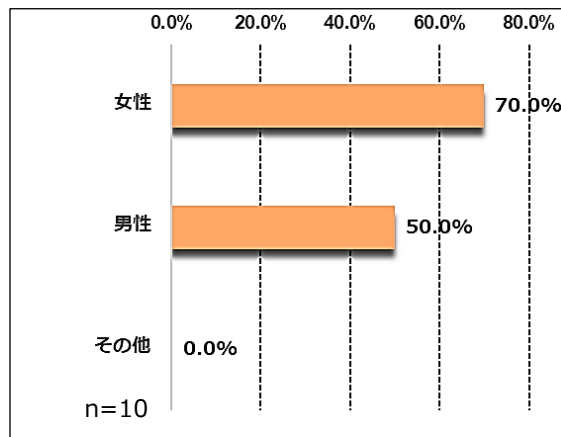
## ①-2 ヤングケアラーの状況について

(①で「いる(いた)」を選択した場合に回答)

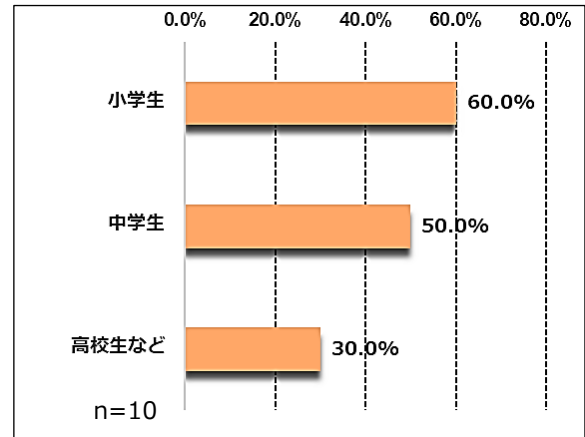
直近のケースにおける子どもの状況について聞いたところ、以下のとおり回答があった。

図表4 ヤングケアラーの状況(複数回答)

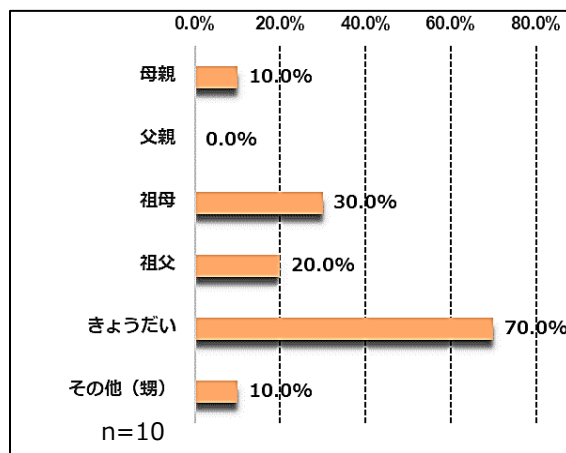
<性別>



<年代>



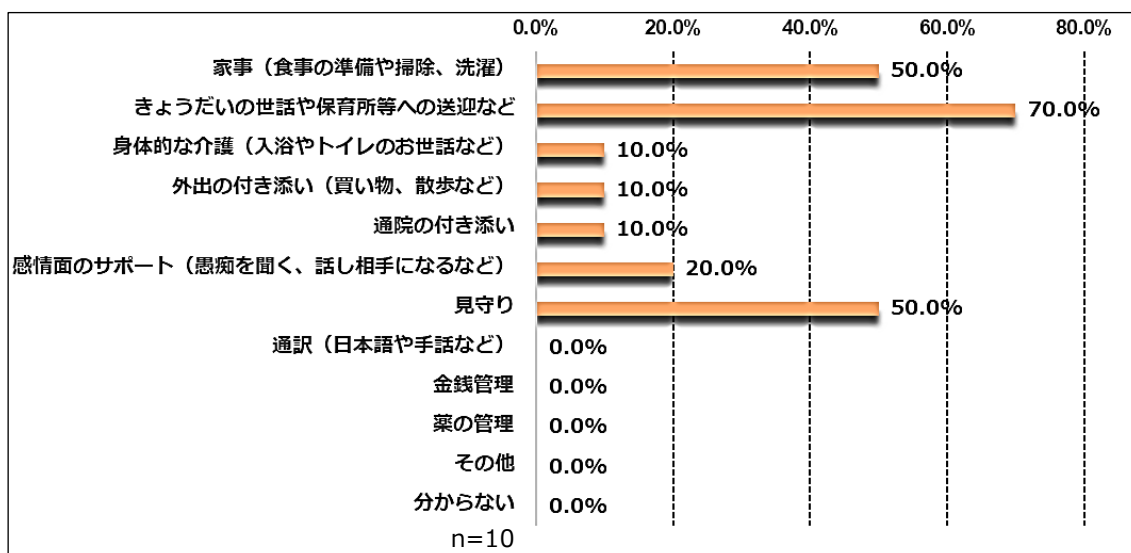
<ケアをしている相手>



<ケアをしている(していた)内容>

「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が70.0%と最も多く、次いで、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」、「見守り」がそれぞれ50.0%となっている。

また、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」や「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」といった内容も少数あった。



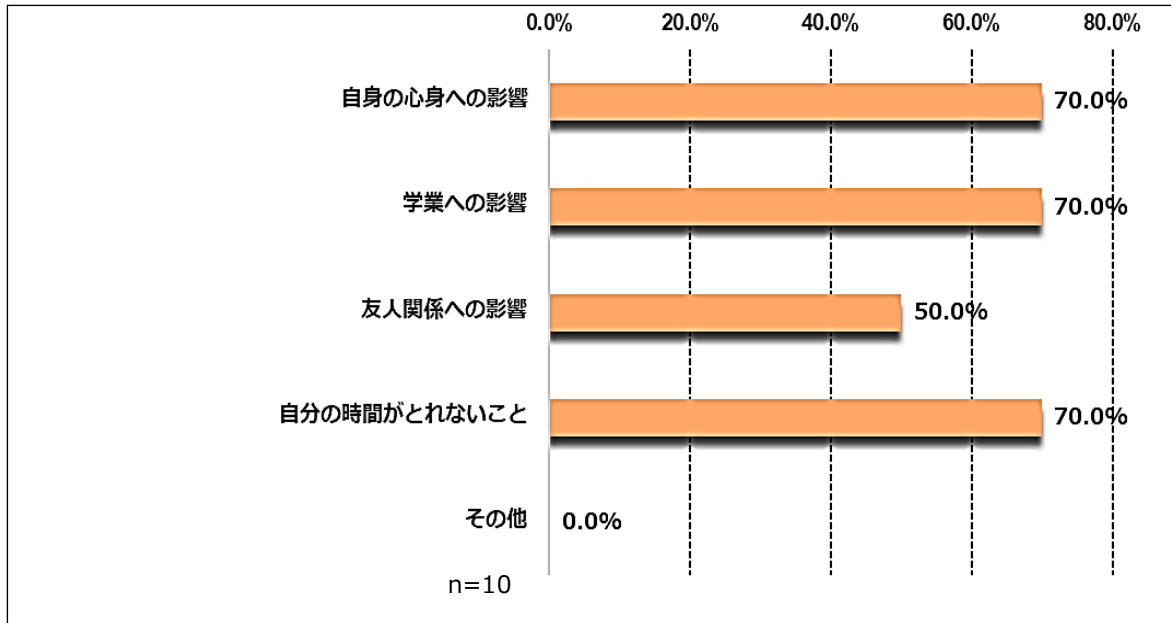
### <ケアの具体的な状況>

代表的な回答は以下のとおり。

- ・祖母、両親、本人（小学校高学年）、きょうだい（小1、未就学3人）の世帯。小1の弟を連れてほぼ夏休み中児童館に来ている。弟の昼食を作っていることもある。昼食を取らずに来館していることもあった。食料品の買い物に1人で来ていることもある。
- ・母（40歳代）、本人（高校生）、弟（小学生）の3人世帯。母はうつ状態で、母の代わりに発達障がいのある弟の世話をしている。本人は高校を中退した。
- ・6人きょうだいの長女（中学生）について、両親は共働きで、ネグレクトとまではいかないが、家事を担当している様子である。
- ・母、娘（小学生）、息子（2歳）の3人世帯。母は子育てに積極的でなく、娘が弟のオムツ替えやお茶等の準備、遊び相手などを日常的に行っている。また、仕事で母が夜不在時は、娘が弟の寝かしつけを行っている。
- ・母（40歳くらい）、本人（15歳）、妹（小学生）、弟（未就学）の4人世帯。母は家事、育児が不得手であり、母が仕事に出ている時は弟の面倒をみている。妹や弟の昼食の準備をすることもある。
- ・認知症の曾祖母（90歳代）の見守りを小学5年生の娘が行っている。父親だけのひとり親家庭であり、3人での生活ではやむを得ない事情に見えた。

### <ケアを担うことによる自身の生活への影響>

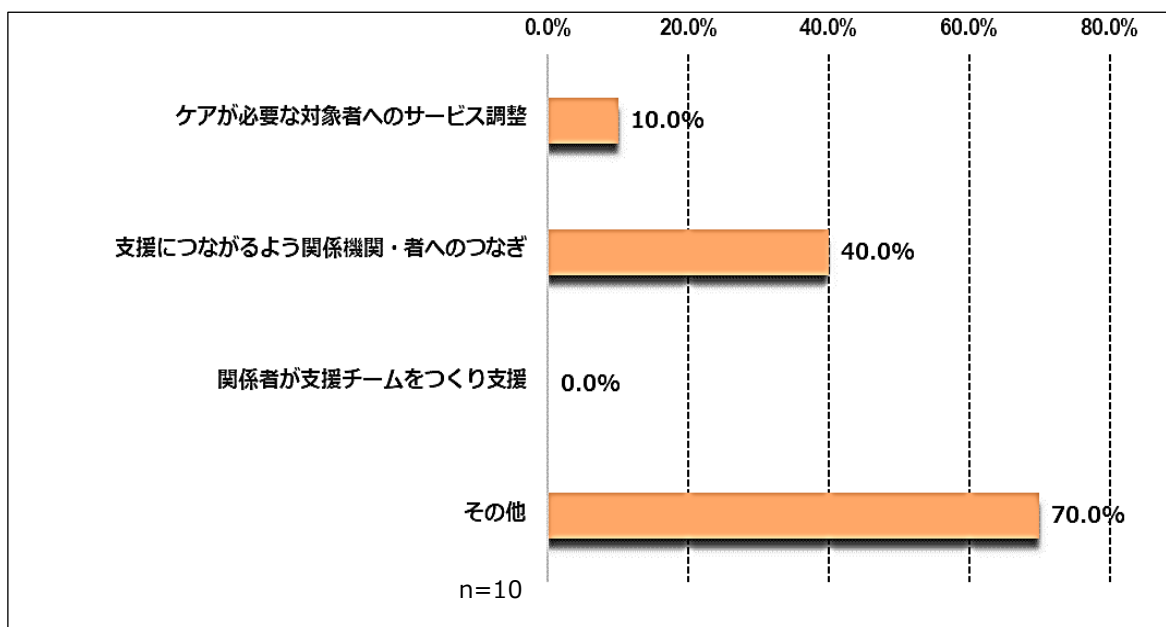
「自身の心身への影響」「学業への影響」「自分の時間がとれないこと」がそれぞれ70.0%と最も多く、次いで、「友人関係への影響」が50.0%と、生活への幅広い影響が出ていた。



#### <ヤングケアラーと思われる子どもへの支援の内容>

「支援につながるよう関係機関・者へのつなぎ」が40.0%、「ケアが必要な対象者へのサービス調整」が10.0%であった。

また、「その他」として、「児童館への来館時の見守りや関わりづくり」や「食事の提供」のほか、「本人がサポートを必要としていない」といった回答があった。

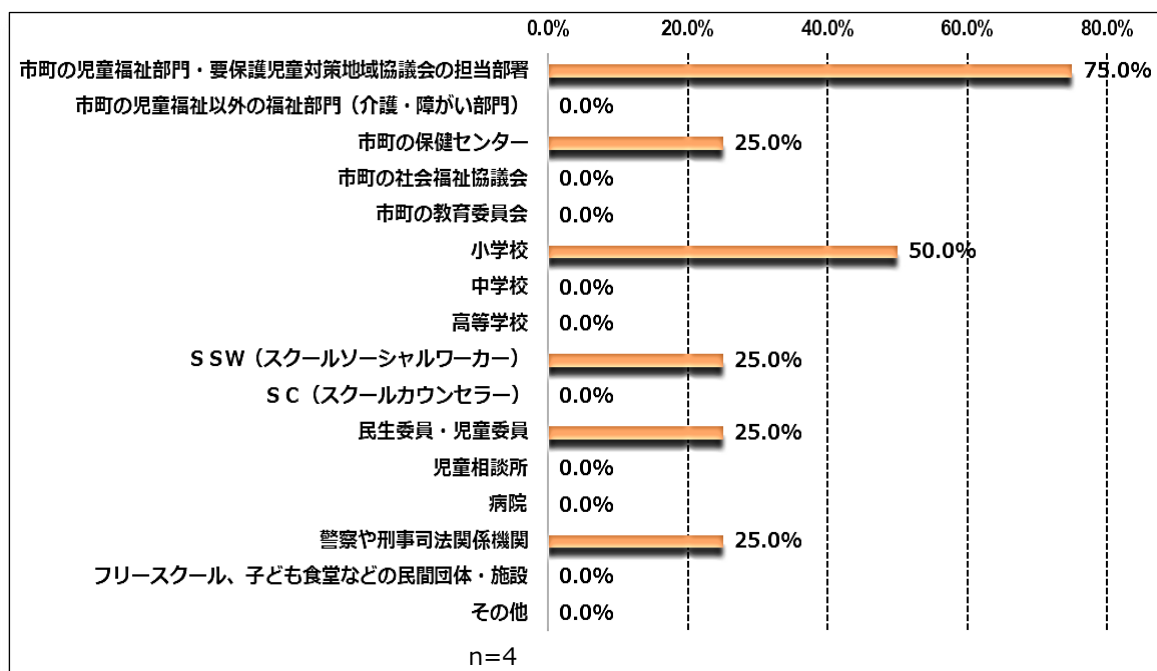


#### <具体的なつなぎ先>

(上の質問で「支援につながるよう関係機関・者へのつなぎ」と選んだ場合に回答)

「市町の児童福祉部門・要保護児童対策地域協議会の担当部署」が75.0%、「小学校」が50.0%であった。

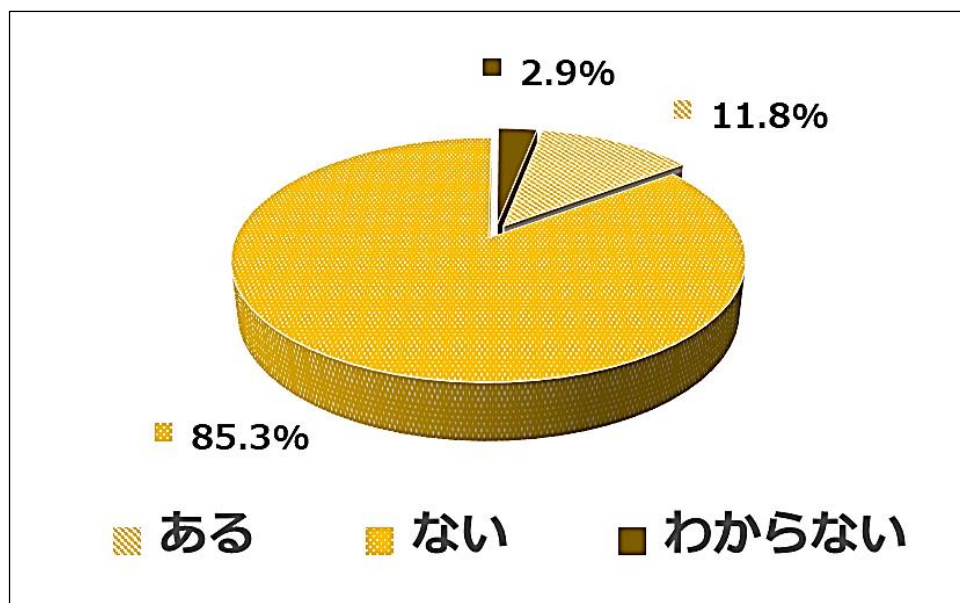
また、「市町の保健センター」、「SSW（スクールソーシャルワーカー）」といった機関・者へのつないでいるケースもあった。



### （3）ヤングケアラーと感じる子どもの情報提供について

- ① ヤングケアラーと感じる子どもについての関係機関・者からの情報提供等の有無  
 関係機関・者から情報提供等を受けたことがあるか聞いたところ、「ある」が11.8%（4名）、「ない」が85.3%、「わからない」が2.9%であった。

図表5 ヤングケアラーと感じる子どもについての関係機関・者からの情報提供等の有無





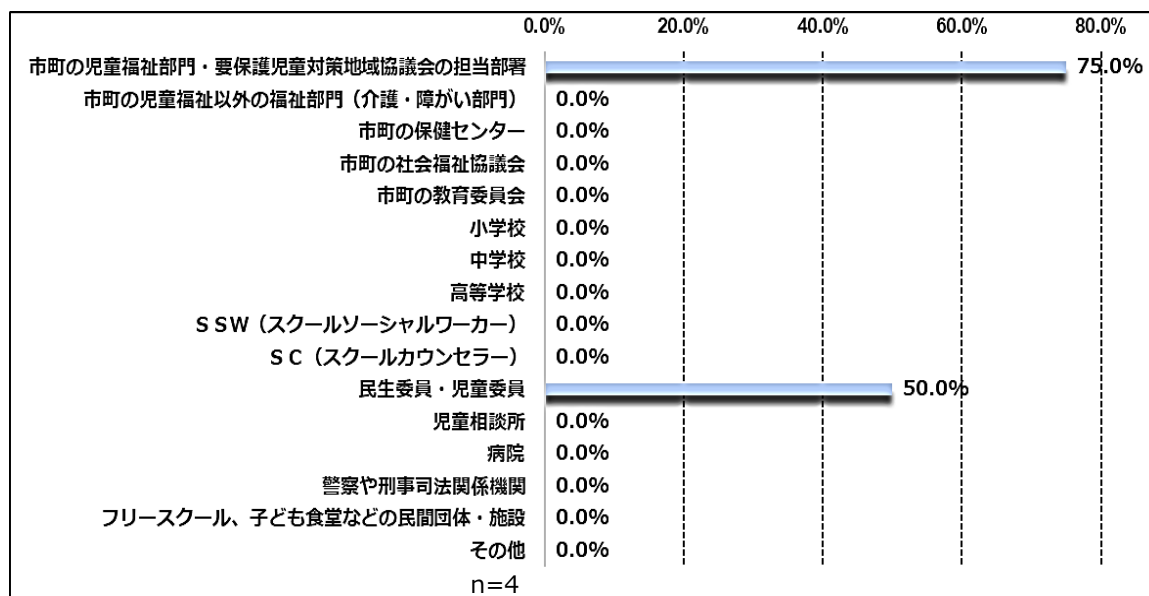
①-1 情報提供等のあった具体的な関係機関・者

(①で「ある」を選択した場合に回答)

具体的な関係機関・者を聞いたところ、「市町の児童福祉部門・要保護児童対策地域協議会の担当部署」が75.0%、「民生委員・児童委員」が50.0%であった。

図表 6 情報提供等のあった関係機関・者

(複数回答)

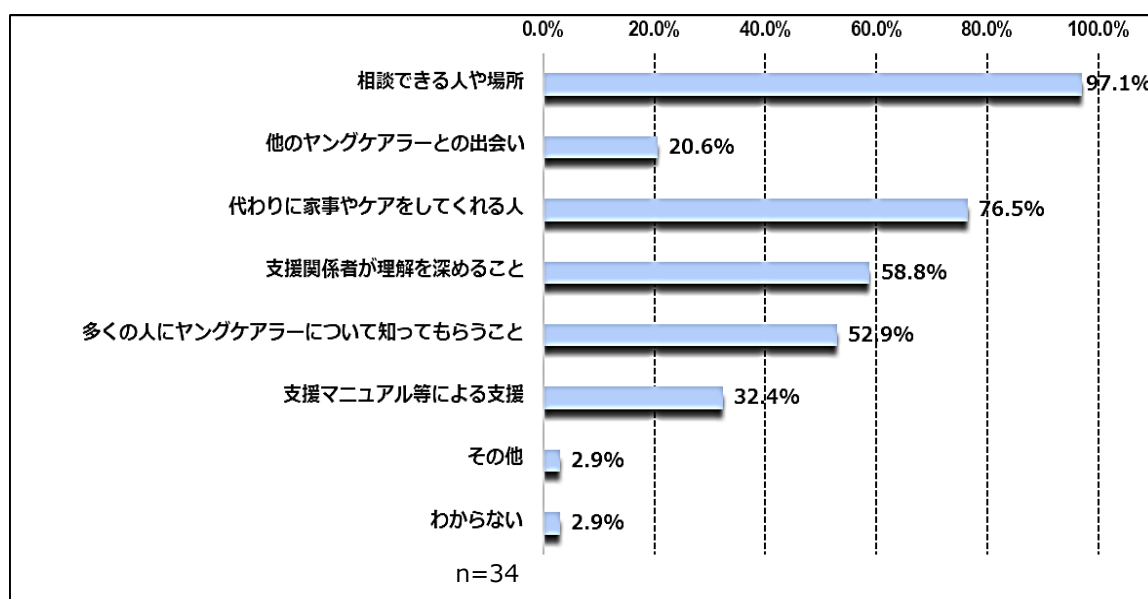


(4) ヤングケアラーである対象者に求められるサポート

ヤングケアラーである対象者に求められるサポートは何か聞いたところ、「相談できる人や場所」が最も多い97.1%、次いで「代わりに家事やケアをしてくれる人」が76.5%と多くなっており、対象者の相談機会の充実や家庭への家事等の支援が求められている。

また、「支援関係者が理解を深めること」が58.8%、「多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうこと」が52.9%となっており、より一層の周知・啓発を図っていくことが求められている。

図表7 ヤングケアラーである対象者に求められるサポート（複数回答）



#### (5) ヤングケアラー支援で注意すべき点

代表的な回答は以下のとおり。

- 支援者の態度や言動により、子どもが劣等感をもちたり、プライドが傷ついたりしないようにする。また、安心して相談ができるような関係づくりをした上で、話をしていく。
- 子どもの思いとかけ離れた支援にならないように、子ども自身がどういう思いで家族のケア等をしているか、どういう助けを求めているか、よく話を聞く。
- 子どもが自分の時間やしたいことを諦めなくても済むような公的な制度・機関・支援を一緒に考えようとする姿勢をしっかりと見せ、「困ったら大人に相談しよう」と思える働きかけを継続的にすること。
- ヤングケアラーが悪いことだと受け止められないよう言動に十分に配慮する。
- 支援者であったとしても、必要以上に詮索をせず、対象者が話したくなるまで待つ。
- 介入レベルのラインと適切な支援（どこまで支援をし、それが誤った対応でないか）。
- 知られたくない子どももいるかと思うので、さりげない配慮をする。
- 子どもだけでなく保護者も一緒にサポートし、保護者にとっても安心できる場であるように配慮する。
- ヤングケアラーがその状況をどのように理解しているか。本人は生きがいに感じていることもある。

#### (6) ヤングケアラー支援のための民間の連携先で考えられるところ

代表的な回答は以下のとおり。

- こども食堂
- フードドライブ等を行っている大きな企業
- ファミリーサポートセンター
- 高齢者・障がい者福祉施設

- ・保育所
- ・シルバー人材センター

(7) ヤングケアラー支援について取り組んでいること、今後取り組みそうなこと  
代表的な回答は以下のとおり。

[児童館]

- ・近隣小学校との連絡会議。
- ・問題を抱えている事を打ち明けられる児童館を増やす。
- ・心身共に休める居場所であることを前提にしている。友達や職員とお茶を飲んだり、たわいのない話をしたり遊んだり、子どもが当たり前に行えること、できる場を提供する。
- ・児童館を利用することで、子どもが自分のための時間を確保できるようにする。また、学校等と連携し、子どもの生活の様子について情報交換をする。
- ・ヤングケアラーと思われる子どもを発見した際は、学校や行政等の関連機関と情報共有・連携し、地域で包括的に支援できるよう見守ること。
- ・普段から来館者と良好な信頼関係を築き、何でも相談できる環境づくりに取り組んでいきたい。
- ・本人がヤングケアラーと自覚していない事もあるかもしれないので、ポスターや貼り紙等で周知を行い、本人またはその周りの人にも理解を深めてもらうとともに、社会全体でサポートする体制づくりを行う。

[子ども食堂運営者]

- ・具体事例が身近に無い（気付いていないだけかも知れない）ため、取り組むべき内容が想定しにくい。しかし、何らかの支援（相談支援、食支援、適切な支援先へのリファー等）は可能だと思われる。
- ・お弁当や食品、交流の場の提供。

(8) ヤングケアラー支援についての課題や困りごと（その他、自由意見）  
代表的な回答は以下のとおり。

[児童館]

- ・あらゆる機関が情報を共有し、解決に向けての環境整備が急務と感じる。
- ・ヤングケアラーという言葉の意味の周知が必要と考える。また、家庭内のことなので実情が分かりにくく、孤立した状態で行われていれば、更に分かりにくい。当事者本人もケアをするのが日常で、支援が必要な深刻な問題とは認識していない可能性もある。学校で授業やプリント、ポスターなどで子ども達に周知していく事から始めてはどうか。
- ・非常に見えにくく、分かりにくく問題も深い。発見したり、子どもから相談があったりして、関係機関につなげて、そこも対応しきれていないように感じる。
- ・「児童館もあるよ」という啓蒙カードだけでなく、TV やネット等で思春期の中高生も児童館が利用できるということを何らかの形で流してもらえると、子どもがフラッと児童館に来たり、大人（児童厚生員も含む）に話したりする機会も増えるのではないかと。

- ヤングケアラーは、日常生活を営む“今の環境”が普通だと思っている。よって、自分からSOSを発さなかったり、「相談・支援は必要でない」と感じたりしているのではないかと。また、もしその日常が負担だと感じていても、行政窓口や学校への相談も敷居が高いうえ、時間的な余裕もない。「どこかへ遊びに行く」など、息抜きをする暇すらないので、より身近な居場所や友人関係からリサーチし、ピンポイントでアプローチしていく必要があるのではないかと思う。ヤングケアラーへの支援は、より生活に密着した、極めてデリケートかつ専門性が高い支援だと認識している。プライバシーへの配慮など、専門的な知識が無いと、対応はなかなか難しいのではと考えている。
- 現時点ではヤングケアラーと思われる子どもには出会っていないが、今後出会う可能性は十分考えられるので、ヤングケアラーの現状について学び、理解を深め、対応について職員間で共有していきたい。
- 児童館には家庭的に恵まれない子どもたちの来館があるが、実際にヤングケアラーであるかどうか気付くためには深く関わる必要があると思う。また、実際にヤングケアラーとして自分の時間の多くをケアに割いている子どもたちには児童館に来る余裕などはないように思う。軽度の段階で気付ける体制があればと思う。
- ヤングケアラーについて、名前は聞いたことはあるものの詳しいことまでは知らなかった。子どもたちを支える人として、もっと詳しく知り、理解を深めていきたい。

[子ども食堂運営者]

- 勉強していければいいかなと思う。情報を取り入れるように努力したい。